

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

経済産業大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small> 受賞	受賞者名
	株式会社星野リゾート 軽井沢事業所
	所在地
	長野県北佐久郡
受賞テーマ	ホテル業界初のゼロエミッション達成 ～全てのごみを資源へ～
<p>1. 活動継続 あり</p> <p>受賞時の活動内容を現在も継続中。</p> <p>資源分別ゲーム「シゲカツ」はスタッフに定着してきており、以前に比べて誤分別も減っている。現在は主に新入社員に対しての基礎トレーニングの一環として活用している。その他、資源ステーションチェックで誤分別が多かったユニットを対象に再履修も行っている。</p> <p>また、ゼロエミッションを達成したことで、社内では「ゴミ」と呼ばずに「資源」と言い換えるように啓発活動を続けている。</p>	
<p>2. 活動の広がり あり</p> <p>食品資源（生ゴミ）の分別ミスが無いかわ毎月必ず地元酪農家のもとへ出向き、スタッフが1袋ごとに内容を確認している。同時に混入数を減らす取組みも続けており、年間の目標数を決めて、日々の分別に当たっている。</p>	
	
<p>生ごみを牧場に運び込む様子</p>	<p>参加者全員で1袋毎の異物チェック</p>
<p>3. 活動の進化 あり</p> <p>資源の排出にあたり、今までは軽量のカテゴリーをバーコードによって管理、把握していたが、新システムを導入、オリジナルのアプリを開発することで、視覚的、感覚的に計量を管理することが出来るようになった。</p>	
<p>オリジナルアプリを搭載した新システム</p>	
<p>4. 今後の計画</p> <p>全国 37 か所に点在する星野リゾートの施設でも同様の活動を推奨する為、より持続可能な仕組みになるように、効率的な環境活動を目指し、総量の削減や処理方法の見直しの工夫を行なっていく。また、それらの活動を通してリゾート地である軽井沢の自然環境の保全に寄与できるよう活動を進化させていきたい。</p>	
<p>5. その他 特記事項</p> <p>ウイルス性感染症のリスクを考慮し、スタッフ間のマイカップの共同利用は中止した。自動販売機ではペットボトル、紙コップ、缶を使用しているが、専用のBOXに分別し業者様に資源として全て回収していただいている。</p>	

【表彰概要】

同社では、ゼロエミッションを「運営によって生じる廃棄物の単純焼却・埋め立てゴミゼロ＝リサイクル率 100%」と定め、2000 年よりその達成を目標に活動を開始した。実践手段は 3 R を意識し、リデュースを最優先に取り組んでいる。やむを得ず排出される廃棄物については、2011 年 11 月にホテル業界として初のリサイクル率 100% を達成した。以下が取り組みの概要である。

●ゼロ委員会

各部署から選出された「ゼロ委員」によって構成される「ゼロ委員会」を組織し、目標の設定、分別ミスのチェック等を行い、全従業員を巻き込んでゼロエミッションを推進するための重要な組織となっている。

●シゲカツ（資源分別ゲーム）

ゼロエミッションの達成には、正確な分別が必須である。廃棄物の種類が多岐にわたる為（2012 年 5 月現在で 31 分別）、オンラインの資源分別ゲーム「シゲカツ」を制作し、分別ルールの徹底に活用している。シゲカツは、パート・アルバイトを含む全スタッフが年 1 回、100 問を全問正解するまで繰り返し実施している。

●計量の徹底

計量器を設置し、排出時に 1 袋ずつ部署・種類・重さを記録。計量できない産業廃棄物も独自のルールを設けて量を計算し、全廃棄物量を把握している。

また排出総量や再資源化率を定期的に把握し、目標を設定している。

●披露宴メニューの当日選択制（リデュース）

披露宴で出る食べ残しごみを減らすため、宴席着席後にメニューを選択できるプラン（シュル・ラ・カルト）を一部会場で提供。生ごみの 16% 削減に成功した。

●アメニティグッズの廃棄削減（リデュース・リサイクル）

シャンプー類は繰り返し使えるディスペンサー容器で提供。無理のない範囲で持参呼びかけを行うとともに、プラスチック製品などにリサイクルしている。

●仕入れで発生する包装ごみの削減（リデュース・リサイクル）

通い箱やリターナブルビン（飲料・調味料のビン）の利用等で包装ごみを削減し、発生したものは材料別にリサイクルしている。

●従業員用自動販売機でのマイカップ利用（リデュース）

従業員休憩室に設置された紙カップ式自動販売機は、すべてマイカップで飲料を購入する方式に変更し、使い捨て紙カップの発生を抑えている。

●割れた陶器やガラスのリサイクル（リサイクル）

一般的な埋立ではなく、路盤材としてリサイクルしている。

●リサイクルループの構築（リサイクル）

一般にリサイクルループの構築が進まない最大の原因は処理費の増加だが、同社では処理費を従来よりも増やさずに全廃棄物のリサイクルループを構築した。最も重量の多い生ごみは地元酪農家と協力して堆肥化し、その堆肥を使用した野菜は、可能な限り事業所内のレストランで使用している。